



いろいろな言葉であいさつしよう

- ・教科 総合的な学習の時間（国際理解）・英語活動
- ・対象 3年～6年（1・2年でも可能と思われる）
- ・ねらい 外国にはいろいろなことばがあり，あいさつにもいろいろあることを知り，異文化理解への導入とする。
 ゲームを通じて外国の挨拶を覚え，異文化への関心を高める。
- ・教材 各国のあいさつの音声の入った教材を用意できることが望ましい。ここでは，一例としてPCソフト「英語であそぼう」（1回目に使用），「みんなでHello・会話編」（2回目に使用。ともに内田洋行発売）を使用するものとする。
- ・時間 15～20分（本時は2回の内2回目）

- ・1回目の概要 PCソフト「英語であそぼう」の導入画面で，キャラクターにカーソルをあてるとその国の「こんにちは」の音声が出る部分がある。それを使って，いろいろな「こんにちは」の発音を練習しておく。



・本時の学習活動

児童の活動	教師の活動	指導上の留意点
・教師の挨拶と同じ国の挨拶を返す。その後，教師からの「どこの国の挨拶？」の問いに答える。（全員で）	・まず第1声で前時に練習した国の中の一つの挨拶をする（例：中国語「ニーハオ」）。児童も，同じ挨拶をするよう促す。 ・その挨拶がどの国のものか尋ねる。	・高学年の場合は，事前に地図を用意しておき，国を地図上で指示できるようにすると良い。
・教師の発問に，分かる児童が答えた後，全員で発音する。	・バーコードリーダー「みんなでHello」で挨拶の音声を流し，国名当てをした後に，教師が国名を言って「この国の挨拶は？」と発問する。	・ここは発音確認なので，あまり時間をかけなくても良い。
（ゲームの内容） ・向かい合う相手に対して，挨拶する。 ・相手は，それとは違う国のことばであいさつする。 ・優勝したチームには拍手を贈る。	・各国の挨拶を使ってゲームをする事を知らせる。 ・クラスを4チームに分け，2組を向かい合わせる。 ・優勝したチームには拍手を贈る。	・1チーム4カ国以上の挨拶が使えなければ負け。 ・使えたチームが負け。勝ち残った2チームで決勝戦。 ・使用言語数を増やすなどして，負荷を増やしていく。